

「認知症世界の歩き方実戦編」：笈 祐介（かけい ゆうすけ） 「正しい時の流れの感覚を完全に失ってしまう竜宮城」【実戦編 トキシラズ宮殿】

－PART I 対話編：認知症の方が生きる世界を知り、言葉を交わし、関係を深める－

《この世界には、正しい時の流れの感覚を完全に失ってしまう、余にも不思議な現代版・竜宮城があるのです。ほんの数分音楽を聞いていただけのはずなのに、半日経過する部屋。ランチを食べようとしたら、いつの間にか真っ暗なディナーの時間になっている食堂。そして数年間前の結婚式の思い出が、昨日のこのように感じられる教会……。
そう、この宮殿の時計の針は一定のリズムで刻まれず、独自の時を刻むのです。カメが泳ぐようにゆっくりと流れることもあれば、トビウオのようにひとっ飛でしまう……。》

◆ 時間を刻む速度と時間感覚がズレる理由

(1) 時間間隔が歪むトラブル

① 長短の感覚の歪み、 ② 24時間・朝昼晩の歪み、 ③ 出来事の前後、時期の感覚の歪み

(2) 体内時計がズレる理由

① 認知症による脳の視交叉上核のトラブル

太陽光を感知して体内時計のズレを整えるマスター時計の役割が機能しなくなるトラブル

② 身体のような感覚器官から入ってくる知覚情報のトラブル

朝朝を食べると味噌汁の塩分が体内に入り、胃や肝臓が働きはじめ、朝を認知できなくなるトラブル

③ 生活習慣の変化によるトラブル

加齢や疾患の影響で外出が減ると太陽光を浴びる時間が減り、マスター時計が機能しにくくなるトラブル

◆ 何度も何度も食べたくなる?!謎

三食の食事をいつも規則正しく食べる愛味子さん。最近どうも様子が変わります。今日も6時に起床し、犬を散歩した後に、8時に白いご飯と大好きな納豆、焼き魚を美味しくいただきました。

しかし、食べ終わって30分もたっていない9時には「朝ご飯はまだなの?」「お腹がすいてたまらない!」と言うのです。「さっき食べたばかりでしょう!」と言っても、「ウソをつかないで!」と怒ってしまい……

次に、この出来事の背景で、彼女が経験した認知機能のトラブルを示している部分（推理の糸口）を探してみましょう。

◆ 推理（認知機能障害のご本人の思いを推測する）

① 食事をした記憶が残っておらず、食べてないと思い込んでいたのでは?

⇒ 「朝食を食べた」という記録・保持・想起できない記憶のトラブルに陥った可能性があります。

② まだ早朝で、たった今起きたばかりだと感じていたのでは?

⇒ 時間感覚のトラブルにより、起床から3時間を経過しているのに、まだ起床したばかりだと認識

③ 身体が空腹感を強く感じていたのでは?

⇒ 体感性のトラブルにより、食事直後にもかかわらず、満腹感を覚えず、空腹感を強く感じている

④ 過食症状が出て、理由なく

◆ アイデア（トラブルに対するみんなで取り組むことができる具体的アクション）

① 本人と相談して、食事時間を知らせるアラームをかける

⇒ 好きな音楽やメッセージとともに「食事タイム」を伝えることで、本人にとっても、食事の時間を正しく認識するきっかけづくりをする

② 「お腹が空いたねえ」と同意し、「何を食べようか?」などと対話する時間を持つ

⇒ 本人の主張に同意して、ゆっくり会話する時間を経過することにより、食事をしたい気持ちがおさまることがあります

③ お茶やお菓子などで空腹感を満たしながら、ゆったり過ごす

⇒ 「お腹が空いている」ことを受け入れ、お茶やお菓子をつまみ、ゆったりと時間を過ごすことにより食事をしたい気持ち、空腹感がおさまることがあります。

④ 食事の時間を撮影し、記録に残しておく

⇒ 曖昧になる記憶を補完するため。食事に限らず、日常生活や風景を写真撮影することは、本人の楽しみになるかもしれません。

⑤ 避けたい対応 ・何時何分に何を食べたという事実を正確に伝え、説得する⇒説得困難

・お腹が空いていることを受け入れ、再度食事を提供する ⇒健康を害する

次回 自分が思い描いたストーリーが現実のものとして現れる劇場【実戦編 創作劇場タイタニック】